

02124 PRECEDE-PROCEEDモデルに  
もとづく地域診断と実施及び評価の事例

(3) PROCEED

堀口逸子<sup>\*</sup>、筒井昭仁<sup>\*\*\*</sup>、小林郁<sup>\*\*</sup>、中村譲治<sup>\*</sup>  
(<sup>\*</sup>福岡予防歯科研究会、<sup>\*\*</sup>福岡歯科大学予防歯科学教室、<sup>\*\*\*</sup>福岡県杷木町役場保健福祉課)

はじめに：このモデルでは評価をプロセス評価、影響評価、結果評価の3段階で捉えている。第1段階ではプログラムを進めていくうえで入手できる様々な情報を基に実施のプロセスを評価、第2段階では健康教育実施や環境整備の結果おこる準備、強化、実現要因の変化と保健行動の変化を評価、第3段階では健康状態やQOLの変化を評価する。今回は断乳の健康教育プログラムとフッ素塗布事業実施のプロセスを定量的、定性的に評価した。評価項目は1. プログラム進行状況 2. 資源(コスト、マンパワー等) 3. スタッフの仕事ぶり 4. 広報活動状況 5. データ収集の方法 6. 関係者の反応(受益者や協力組織の反応、参加率) 7. 最終目標と行動目標の実現可能性や具体性などである。

評価：〔健康教育プログラムの評価〕 1. 定例の関係者会議を持つことで問診票と健診システムが改良された。2. 指導内容一覧により役割分担が明確になった。3. 健診がスムーズに流れるようになり現状のマンパワーで間に合った。4. 断乳状況が問診票から定期的に把握できるようになった。5. 新たな教育媒体が話し合いの中で開発された。6. 受診率が向上し母親からの質問が増えた。7. 食生活改善委員会が目的を持って離乳食教室に参加し、組織も活性化した。8. 断乳実施者割合が上昇してきた。〔フッ素塗布事業の評価〕 1. 3歳までの誕生年月別塗布スケジュール表を作成し連絡もれをなくした。2. フッ素塗布の啓発と継続塗布のための媒体の開発と改良が行われ、町広報紙等でフッ素塗布に関する情報が住民に伝達されるようになった。3. 歯科衛生士が増員、予算も獲得でき受益者負担が減少した。4. 地元歯科医師に能動的行動が見られるようになった。5. 歯科医院での満1歳児塗布受診状況はもれなく把握されている。6. 受診率が55%から1年後77%へと向上した。

総括：このモデルは健康問題に対する社会生態学的なアプローチを特徴としており、直接的・間接的要因を連鎖的な繋がりとして理解する事ができた。また俯瞰図的に捉えられるので施策対象を明確に把握でき具体的な施策を考える事ができた。各段階で問題解決の優先順位をつけることで取り組むべき問題が明確となった。忠実に診断段階を踏むことにより評価のために必要な情報を入手することができた。一連のプロセスでは関係者の巻き込みが図られ、その役割が明確となり各々がエンパワーメントされた。